

天空の窓

シエルの会 会報
発行 2006.10.8

会長代行あいさつ

浅野 衛

厳しかった今年の夏の暑さも終わり、朝晩はさわやかな今日この頃ですが、会員の皆様にはご健勝のことと思います。

今年度も約半分が過ぎ、サマーレクレーション、グループ活動など、無事実施されてきました。また、会員連絡用メーリングリストおよび、ホームページ (<http://ciel.sunnyday.jp>) も充実してきました。会員の皆様のご協力および関係者のご努力に感謝申し上げます。

振り返って、シエルの会(高機能広汎性発達障害児親の会)発足当初の6年前に32名だった会員数は、現在80名ほどになります。会員の子供達は、当時小学生だった人が今や、高校生や大学生となり、新たな入会者の小学生の子供を含め幅広い年齢層となりました。それに伴い、会員の関心も家庭生活、学校生活、進学、就職と広がってきています。会ではこれまで毎年、会員による会員の為の有意義な活動を目指してきましたが、役員の固定化・負担増、心のよりどころの交流の停滞など、問題も見えてきました。このため、昨年度末より、前・後藤会長を中心に組織と活動の見直しを行い、今年度、学年別グループ活動を基盤とする、原点に戻ってみんなで支える会体制をスタートしました。新たな試みにより、活動の中で問題が出て来るかもしれません。シエルの会は私たち親が必要を感じ、スクラムを組んで育ててきた会です。今後もみなさんの意見・知恵で改善しながら、子供のためによりよい環境作りを目指したいと考えます。

近年、法の整備(発達障害者支援法、障害者自立支援法)、学校での特別支援教育の施行、日本発達障害ネットワーク(JDD ネット)の設立などなど、我々を取り巻く状況が大きく変わろうとしています。状況の変化をしっかりと見極めたいと思います。

一人で悩まないでみんなで支え合える会、一人でできないことがみんなの協力のできる会、今後もそんな会でありたいと思います。

教員セミナー(第5回)を終えて

(記 担当浅野)

去る平成18年2月5日(日)、仙台市福祉プラザで昨年度に引き続き「教員セミナー」を会主催で実施しました。受講者は84名でした。(発表者2名を除く) 講師の先生:渡辺徹先生(宮城教育大学)、只野文基先生(仙台市親子こころのクリニック)、田中真理先生(東北大学)、今公弥先生(五十嵐小児科)、(司会)川村素子先生(五十嵐小児科)

今回の実施にあたっては、次の点に注意しました。

- ・ 従来、主催者側で、準備した「検討事例」を参加教員に募集した。
- ・ 従来、募集教員30人程で5~6人程度でのグループ討議をしていたが、今回は100人を募集し、事例発表者・講師の先生・参加者によるシンポジウムの形式をとった。
- ・ 従来通り、宮城県・仙台市教育委員会の後援をいただいた上、広く県下の教育委員会、教育事務所にも会員が働きかけ、ちらし配布を実施した。

「検討事例」については、残念ながら1件の応募しかありませんでしたが、仙台市以外の教員の方も多く参加したセミナーでした。先生に自由な討議をしていただく為、親には非公開なので、セミナーの詳細内容はわかりませんが、実施後の参加者アンケートの結果を見ると、ほとんどの先生より有意義なセミナーであったとお話がありました。子供たちの支援者を少しでも増やしていこうと始めた「教員セミナー」ですが、今回もその目的を果たせたものと思います。ご協力いただいた講師の先生、発表者、そして会員の方々に、心より感謝申し上げます。

天空の窓

第3回アーチ療育セミナーに参加して

A・K（ボラ）

今回のテーマである「今の暮らし、今の楽しみ」は、高機能自閉症であることを自らも認める藤原翔太氏とその保護者の方との会話形式の発表により進行しました。保護者の方が話のペースをつくり、そこに翔太氏の元気ある発言を生かした講演に会場はあたたかい雰囲気に終始包まれていました。

「自分らしい生活の実現に向けて」では障害があることを隠す道でなく障害を公表することで周囲に本人を見てもらうことを選び、社会の中で生きる力を身につけようとしてきた家族の取り組みを知る機会となりました。本人が職場という集団の中に身を置き、どのように自分の難しさと向き合っていくのかなど、就労に伴い発生する問題を考える機会にもなりました。幼いころから旅行が大好きだったことを契機に、努力の積み重ねによって自力で交通機関を使用し全国を旅行できるスキルを獲得しました。それが今の彼の大きな自信につながっています。このような趣味を持つからこそ働いてお給料をもらうことに意欲を燃やすことができ、旅行でストレス発散が出来ることで自己の精神安定に役立っています。そんな彼は嬉しいと感じました。

岐阜大学助教授 別府 哲氏による「～高機能自閉症の内面世界を理解する～」では、「自閉症者の特徴である感覚過敏によって作りだされる世界について」や、あいまいな指示・場面の理解が困難であることについてなどが取り上げられました。教えなくても常識的に分かるはずだという周囲の人々の考えがいかに自閉症児に苦痛と不安をもたらすのかを私たちに伝え、自閉症児たちに彼らが安心できる世界を保障することではじめて新しいことに挑戦していくのだと語ってくれました。事例として、顔面の感覚過敏があり学校のプールの授業で顔に水がかか

るのに耐えられずパニックになる自閉症の子の話が印象的でした。この状況を打開するためにまずクラス生徒に対し、顔に水がかかっても平気な子達と顔に水がかかるのが苦手な子達の2グループに分けて、後者と自閉症の子を一緒にして授業をしたところ、お互いに水をかけ合うことがないためか無事にプールの時間を過ごすことができたというのです。少しの時間でも構わないから周りの子を自閉症児の活動へ近づける時間を設けることで自閉症児のパニックを防ぐことが出来ると語っていました。こうした短い時間でもトラブルなく、非難を浴びせられない時間をもつことは自閉症児の心を安定に導き、自信につながっていくものなのだとして強調していました。安心できる世界の保障、そのために自閉症児の世界へ近づくことこそが大切であるのだと教えられた講演でした。

A・Kの母

ひとつ付け加えますと、最後に先生が、親が頑張りすぎるから子どもに押し過ぎてしまい、その結果子どものいくつもの顔を見失い、気になる一面しか見えなくなるとのお話がありました。親子関係が密着しすぎて、子どもの代わりに親自身も巻き込まれて大変なことになっている事例も紹介されました。

そうになってしまう家族を責めるのではなく、家族の依存関係を引き起こすほどに家族を追い詰めてしまう社会の状況に着眼すべきとのこと。そのためにも社会の中で家族を支える地域システムが重要であり、子どもには自尊心を高める教育を大切に、1日中付き合うのではなく焦点を決めてかわる（彼に合わせる生活）ことが必要ということでした。

どうしても幼いころから手や目をかけて育てた分、成長しても心配しすぎたり、挑戦を渋ったり、親の思い込みで自立を阻んでいないだろうかと反省させられます。最近、とみに「お母さんは過保護すぎる」と息子にいわれて、まさに先生のお話どおりの親子

天空の窓

関係になっているのかもハッとしました。

子どもからちょっと離れて、子どもの多面的な顔を発見しなければいけませんね。

うまく表現できませんが、養育・教育・就労・そして親子関係など、日々の大切な子育てのヒントが含まれていた講演会でした。機会がありましたら、ぜひ皆さんも先生の楽しいお話聞いてみてください。

親父の会に参加して

今年初めて、副会長さんのお声がけにより父親の会が実現しました。お酒を酌み交わしながら子どもたちの将来についてまじめなお話をしたようです。

そのようすをちょっと覗いてみましょう。

親父の会に出席して大変良かったと思います。自分のことを話して、また、他の人のことを聞けて、子どもにもいろいろなケースがあり、お医者様も含めて対応にもいろいろあることがわかりました。子供の就労問題、父親ができることなどを含めて、子供のことを話して共感できるということは、普通は全くないことなので、調子に乗ってちょっと飲みすぎました。あっという間に時間がすぎました。呼びかけをしていただいた副会長他出席者の皆様ありがとうございました。 (T・S)



泉ヶ岳の思い出

今年のサマーキャンプ(7月20日・21日泉ヶ岳にて)は多くのお兄さん・お姉さんボランティアに支えられ、盛りだくさんの楽しい思い出づくりをしました。たくさんの方からの感想が届きましたので、ボラさんの文章をお借りして、その楽しさをも一度満喫してください。

また、会場下見や企画・運営を受け持ってくださいましたKさん始め、実行委員の皆様、ほんとうにありがとうございました。

初めてシエルの会に参加させていただきました。みんなですごく温かく楽しい2日間を過ごせました。子どもたちがどんな障がいがあるのかということがもう少しわかるとより接しやすかったのかなと思います。ただみんな障がいの有無に関わらず本当に可愛い楽しい子たちで、実際には関係ないんだと私の中の認識も大分変わりました。また機会があればよろしくお願いします。 (Y・I)

私は、今回初めてサマ-レクに参加させて頂きました。始めはやや緊張していましたが、活動をしていく中で、徐々に打ち解けることができました。中でも思い出に残っているのが、雨のため屋外では活動できなかったのが残念だった、MAP。ゲームを通してわいわい楽しく、いろんな人と交流できました。次に、細かい作業の繰り返しだった、切り絵制作。みんなが粘り強く取り組み、素晴らしい作品が出来上がりました。私自身もスプレ-のり係として、お手伝いすることができて、嬉しかったです。この他にも、煙に負けず協力したカレー作り、小さな火がとてもきれいだったキャンドルサ-ビス、花火もありました。楽しくて、あっという間の2日間でした。本当にありがとうございました。 (T・K)

天空の窓

今回のサマーレクでは、主に低学年の子たちと一緒に活動をしました。ブーメラン作りは悪戦苦闘しながらも、ちゃんと飛ぶブーメランを作り上げることができ、子ども達も私たちも夢中になって飛ばして楽しみました。また夜のキャンドルサービスでは、キャンドルの火に皆うつとりし、心が癒されました。キャンドルサービス後のレクでも、雨のため外で活動できなかった分、ジェンカやマイムマイムで体を動かすことができ良かったと思います。子ども達にとっても私たちにとっても、とても良い夏の思い出となりました。 (N・S)

今回のサマーレクは私にとっても夏休みの楽しい思い出になりました。今回印象的だったのはMAPです。私自身、はしゃいで楽しんじやいました。あとはカレー作りでリーダーが仕切って、みんなが自分の役割を果たしていたのがよかったなあと思いました。私個人的には、みなさんの協力のおかげでキャンドルサービスが成功したのがうれしかったです。去年のリベンジが果たせたかな?!と思います。内容盛りだくさんであっという間の2日間でした。2日間ありがとうございました。 (A・O)

今回の一番楽しかったことは子どもたちと一緒にカレーを作ったことです。大きな包丁でじゃがいもやにんじんの皮をむいたり、うちわで炎をあおいで炎を調節したりしながら、みんなで楽しくカレーを作ることが出来ました。できたカレーは最高!!ご飯もおいしく炊けました。また野外でみんなとカレー作りをしたいです。 (M・T)

去年に引き続き、サマーレクに参加させていただきました。参加した子どもたちと同じ空間で一緒に時間を過ごしながら楽しめたことでとても心あたたかくなる感じがしました。何かと難しいものを抱える子どもたちですが、一人ずつゆっくりと関わることでその子が混乱せずに落ち着いて活動に取り組めたり、また私自身もその子自身の特徴が見えてきたりと色々体験したり学んだこともありました。正直初めは弟と同じ障害を抱える子どもたちをボラさんたちはどう感じるのか、どう関わっていくのかと少し疑問と不安を持っていました。しかしボラさんたちと話したり一緒に行動することで、とても優しくて行動力がある方々であることを多々感じました。私自身もサマーレク中に何度も助けられたような感じがいたします。本当に頼もしい方々でした。

今回は対象の子たちの他、そのご兄弟と接する機会にも恵まれ、楽しげに元気良く遊ぶ様子がみられて嬉しかったです。「これ、お姉ちゃんに渡すんだ!」とニコニコしながらブーメラン作りに取り組んでいた姿がとても印象的でした。兄弟に対する思いやりを大事できるその気持ちがどんどんその子の成長にプラスになればとても素敵だなと思いました。また保護者の方ともお話しする機会も持つことができ、良かったと思います。2日間、どうもありがとうございました。 (A・K)



天空の窓

今回初めてシエルの会サマーレクに参加させていただきました。全体を通して感じたこととしては、様々な場面での子どもたちの生き生きとした姿を見ることが出来たと感じています。小学生は遊びたい真っ盛りという感じではしゃぎ、中学生はお兄さんのように小学生と関わり、高校生はそれを一歩引いて見守っている、そんな光景を見るのは初めてで、同じ年齢の集団の中にいるとその集団自体の姿は見えにくくなってしまいが、色々な年齢の集団がいることでその集団の特徴が見えてくるということ、身をもって感じる事が出来ました。

プログラムの内容も身体を動かす MAP、静かに集中する切り絵、みんなで協力するカレー作り、キャンドルサービスと盛りだくさんでした。

MAP では、互いにやり取りをすることによって、一体感を得ることができ、少し緊張気味の表情から、徐々に笑顔が見られるようになり終わる頃にはすっかり打ち解けることができたように感じます。切り絵では、各自が好きな絵柄を選び、日頃あまり使わないカッターを駆使し、夢中になって絵柄と格闘していました。できた切り絵は白い台紙に貼り、良い夏の思い出となったのではないのでしょうか。カレー作りはみんなで協力して一つのものを作るもので、各班で係り分担し、怪我もなく、スムーズにできたのではないかと思います。キャンドルサービスは、暗闇の中にろうそくの炎がともり、その暖かな光がみんなの顔を照らし、幻想的な雰囲気でした。

このサマーレクで、ボランティアとして貢献できたことは少なかったかもしれませんが、自分にとって貴重な経験をさせていただきました。(S・Y)

私は、サマーレクに先輩の紹介を受け参加した。そして、サマーレク前までにお子さんの顔と名前をできるだけ覚えていたので、残りの活動回数自体は少なかったが、できるだけシエルの会の活動に参加した。功をそうしたのか、子供たちは自分を覚えてくれて、サマーレクは私にとってとても楽しい思い出として残すことができた。

また、サマーレクでは普段の活動では見ることができない子供たちの一面を垣間見ることができた。例としてあげるとするならば、一日目の午後の活動の切り絵である。正直私には子供たちにとって難しすぎると思える題材ばかりであったが、それを難なくこなす子供たちを見て、感嘆した。とても不器用な私にはできない芸当である。また、とても集中力がある作業も投げ出さずやろうとする子供たちの根性にも驚嘆した。

本当に私にとって今回のサマーレクはいい思い出になったので、ぜひ来年も参加したい。(M・T)

先輩の紹介で、初めてシエルの会に参加させていただきました。最初のうちは、初対面の人ばかりで少し戸惑ってしまいました。しかし徐々に周りの子や保護者の方、そしてボランティアの方とも打ち解けることができて、とても居心地が良かったし楽しかったです。

子供たちは一人一人個性を持っていて、趣味に至っては、自分の全く知らないことも熟知していて色々と学ばせてもらいました。また、みんな積極的に関わろうとしてくれて、ボランティアとしてのやりがいを感じ、今後も参加したいと思いました。

泊まり付のものではなく、数時間で終わるような活動でも参加したいと思うので、是非活動がある際は一声かけて下さい。

今回は色々迷惑をかけつつも優しく受け入れて下さり、ありがとうございました。(T・A)

天空の窓

すてきな思い出

心温まる感動の思い出を寄せていただきました。一番早く原稿を寄せてくださったY君。目頭が熱くなりながら、引き込まれるように原稿を読ませていただきました。

R君のくれたお守り

僕は今春、高校を卒業した。僕を「ニコラス」というニックネームで呼んでくれたクラスメート、先生方、古びた校舎、毎日将棋の対局をしに行った部室などを今でも時々、懐かしく思い出すことがある。失敗経験が結構多かったので、思い出しては恥ずかしくなったり、後悔したりすることもある。しかしそんな中でも、温かい思い出として心に残るエピソードがある。R君との思い出である。

R君とは席が隣どうして、よく話をした。R君は理数科だったが国語が得意で、僕の苦手な現代文、特に小説の読み取りをよく教えてもらった。代わりに、僕が数学を教えたりしたこともあった。R君の周りにはいつも暖かい雰囲気があって、僕でも気軽に話しかけることができ、同じクラスになってからすぐに打ち解けることができた。

僕はアスペルガー的性格なので、点数にこだわったり、予想外のことが起こったりすると混乱したりする傾向がある。特に受験が近づいた高2から高3にかけて、定期試験や模試の前後になると、不安定になりやすかった。(今でもその傾向は少しあるが。)自己否定的なマイナスの思考回路に入りそうなとき、「自分をそんなに責めることはないよ。」とか、「自分を大切にしないとだめだよ。」とR君に諭してもらったり、たしなめってもらったりしたことがしばしばあった。時には担任のところへ連れて行ってもらい、パニックになる前に不安定な状態を乗り切っていた。そんなことが繰り返されるうちに、R君をとっても親切で自分を支えてくれる大切な人だと思い、

いつか恩返しをしたいと思うようになった。

高3の秋、R君がクラスの中で最初にAO入試で大学に合格したと、ホームルームで発表された。正直言って、うらやましいと思った。今度は自分が受験する番だ、大丈夫だろうか、と不安感が増した。心の動揺と同時に、一方ではR君を祝福したい気持ちでいっぱいになった。こんなときこそ、何かお祝いをして日頃の恩返しするチャンスだと思った。祖父母に、高校入試の合格祝い金をもらったことを思い出し、1000円札を「僕からの合格祝いだよ。」と言って直接R君に手渡した。今思えば当然のことだが、R君は受け取ってくれなかった。これでは恩返しにならないと、納得がいかず、R君が教室にいないときにこっそり100円玉も利子としてプラスしてカバンに入れておいた。当時の僕としては、精一杯の祝福と恩返しのつもりだった。

数日後、R君は僕に「合格祈願」と書かれた手作りのお守りをくれた。これは何かと聞くと、「大学に合格したら開けてもいいよ。」と言われたのでお礼を言い、とりあえずその通りに受験が終わるまで封を切らずに筆記用具の中に入れておいた。

数ヵ月後、センター試験が終わり、二次試験も終わり、ようやく僕は受験から解放された。そしていよいよ合格発表。インターネットで自分の受験番号が合格者の中にあることを確認したときは、飛び上がるほどうれしく、達成感と安心感でいっぱいになった。しばらくして、そういえばとR君のくれたお守りのことを思い出した。何が入っているのかなと、前からずっと気になっていたので、さっそく封を切って中身を確認した。中身はなんと、R君が大学に受かったときに僕がこっそりカバンに入れた1000円札と100円玉だった。普通なら「いらない。」とそのまま返すところを、お守りにして返してくれたのだ。その他にメッセージが書いてある紙が入っていた。読むと、

天空の窓

祝 合格 ニコラスがくれた祝い金と同額だけ
ど、¥1100という数はとてもいい数で1100
が切れるようにという意味がある。違う大学に行く
ことになるけど、お互い頑張ろう！いつだってあなた
を見守る人はたくさんいる。自分を必要としている
人はたくさんいるということを忘れずに…。そして
プラス思考で！！

と書いてあった。自分だったら同じ状況でこんな気の
利いたことはできないだろう。R君の優しさが最後
の最後まで心にしみた。

その後、R君に、常識を外れた祝い方だったことを
わびて、受かったこととお守りについて感謝の気
持ちはメールで伝えた。しばらくすると返事が来た。
メールは、「ニコラス、合格おめでとう。進む道は違
って離れ離れになるけれど、またどこかで出会える
といいな。」と、責めることもなく、なんとも祝福の
気持ちがこもった内容だった。

今でも、そのお守りは机の引き出しの中に大事に
しまっている。自分にとっての大切な一生の宝物だ。
R君とは高校生活の3年間ずっと同じクラスで、支
え続けてもらい、様々なことを教えてもらった。自
分にとって、かけがえのない大切な存在だ。そして、
僕も支えられるだけでなく、R君のように他人を支
えてあげられるような人間になりたい。(Y・S)



トンネルをくぐり抜けて

Yは高校生になると、部活などを通して学校生活
を楽しむ一方で、ハンディを抱える自分自身につ
いて悩むようになりました。中学生のときのような周
囲の理解のなさや、いじめ、からかいといった周り
の壁ではなく、自分の中にある大きな壁にぶつかっ
てしまったのです。「なぜこんな情けない人間に生ま
れてきたのか。」「こんな人間のまま生きていくこと
に意味はあるのか。」と、何度も何度もYは私たち
に問いかけてきました。不安定な状態が続き、出口
の見えないトンネルに入り込んでしまったような、
親子ともにつらい時期がありました。

つらいさなかにも、学校の担任や医療関係の先生
方、シエルで知り合えたお母さん方、ピアノの先生、
Yの友だち等等、多くの方に力になっていただき、
私たち親子はたくさんの方に支えられながら生きて
いるのだということを実感しました。

R君もその一人です。お守りとメッセージを見せ
てもらったときは、涙が止まりませんでした。彼の
ような存在があったからこそYは卒業できたのだと、
感謝の気持ちでいっぱいになりました。またR君が
こんなにも心優しい青年に育った温かい家庭の様
子が思い浮かぶようで、彼のご家族にも頭が下がる
思いがしました。

今、Yは山をひとつ乗り越え、トンネルをくぐり
抜けて、ほっと息のつきたところに出てきたとい
った感じです。これから先も、何度も失敗を繰り返
しながら、その中から少しずつ、それでも確実にい
ろんなことを学び取っていくのだと思います。私も「
プラス思考」でYと向き合っていこうと思います。

(Yの母)

天空の窓

わが子のあれこれ

高1の息子です。会話が苦手で、親しい友達はなかなかできないようです。勉強も難しくなっているようで、毎日悪戦苦闘しています。ただ週一回のボランティアは顧問の先生が食事に誘ってくれるので楽しみにしています。学校生活は大変ですが、少しずつでもいいから楽しみを増やして充実感を感じてもらえればと思っています。(M・T)

我が家のシエル君、すでに高2となり次のステップである進路に頭を悩ませている毎日です。追い詰められない高校なので心の安定は保たれており、親としては肩の荷が一端下りたのですが、これから新たに将来の道に迷い込み、新たな荷をともに背負うような気分です。(Y・K)

T・Sさんからの「こんな本はいかがですか」

障害を正しく知りたくて難しい専門書を読んでもとだんだん疲れてきて、なんだかやわらかい本、簡単な本が読みたくなったりしませんか？らく～に読めたけど結構いいんじゃないこれ、って感じた本紹介します。

『中村さんちの志穂ちゃんは 自閉症のある娘との喜怒哀“愛” 楽な日々』

中村由美子：絵・文 全国コミュニティライフサポートセンター 筒井書房 1,260円

仙台の養護学校に通う自閉症児志穂ちゃんの日常を、お母さんが4コマ漫画とエッセイで綴っています。いかにも自閉症ってエピソードを、ほのぼのとした画風で淡々と描いていて、妙に笑えます。なぜか我が家の娘たちにも「あるある！」「はまる～。」と、大うけです。

こんな風に笑って子育てできたら、子どもも家族も幸せだろうなあ、と思います。頑張る肩の力をちょっと抜いてみようって感じさせてくれますよ。

『発達と障害を考える本 2

ふしぎだね！？アスペルガー症候群 高機能自閉症のおともたち』

内山登紀夫：監修 ミネルヴァ書房 1,890円
オールカラー、かわいいイラスト満載でわかりやすい、大人も子どもも読める本です。

アスペルガーの子どもが学校生活の中で繰り広げる不思議な行動やトラブルを、「なぜそういう行動をしてしまうのか」「どう対応したらいいのか」、本人も周りの人も理解できるようにていねいに説明されています。

私は、「全然わからないんです」という学校の先生にまずこの本を差し上げました。関係する先生方に、ぱぱっと回し読みしてもらえるとこの読みやすさもいいですね。

『「障害児なんだうちの子」って言えたおやじたち』

町田おやじの会：著 ぶどう社 1,575円
お父さんたちのそれぞれの思いが伝わっています。障害の受け止め方、考え方、子どもとのかかわり方、家事への参加など、お父さんたちも十人十色です。でも、みんな我が子がかわいくて一生懸命なんだって伝わってきます。最後の母ちゃんたちの辛口トークもシビアでもおもしろい。

お父さんたちって、自分の子どもの障害のことを話す機会ってほとんどないんですよね、だから集まったらお酒の勢いもあって、しゃべりまくるんだろかな、きっと。シエルの「親父の会」もずっと続けて下さいね。

天空の窓

お勧め図書

9月30日のアーチル養育セミナー講師の別府哲先生(岐阜大学助教授)から紹介されたものです。

「特別支援教育のための精神・神経医学」
杉山 登志郎・原 仁 学研

「ソーシャルストーリーブック」
キャロル・グレイ (服巻 智子 監訳)

「アスペルガー症候群と高機能自閉症：青年期の社会性のために」
杉山 登志郎(編著) 学研

「自閉っ子、こういう風にできています」
ニキ・リンコ&藤家寛子 花風社

「障害者自立支援法と子どもの療育」
全障研出版部

「自閉症スペクトラムの発達と理解」
別府 哲等 全障研出版部

「保育実践と発達研究が会うとき」
清水 民子編 かもがわ出版

シエルの会の設立当初から、会のお世話役を担って下さっています仁平先生が本を出されました。

先生が日頃関わってきた事例をもとに分かりやすく、障害児への関わり方を説いてくださっています。すぐそこにいる身近な子どもたちの理解の糸口になります。ぜひ、手にとってお読みください。

「アクロニウムで覚える 自閉症とアスペルガー障害の対応のちがひ」
仁平説子 著 ブレーン出版

編集後記

やっと会報発行にこぎつけました。大変遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

今回は、会員はもちろんのこと、ボランティアさんから原稿が多数寄せられ、会の運営もボランティアさんの大きな支えによって成り立っていることが実感されます。

本当にたくさんの原稿ありがとうございました。

会報に関する感想やご意見、あるいは次号への投稿などございましたら、菅野までお知らせください。

